

(仮称)さいたまスポーツシュレ推進施設基本計画(案)概要版

1. はじめに

(1) 検討経緯・背景

さいたまスポーツシュレは、市内に集積するスポーツ施設群を中心に、市内の宿泊・研修施設等をネットワーク化することで、**スポーツを「する場」、「学ぶ場」**を確保するとともに、企業・大学・団体等が最新の知見や技術をスポーツに活用するための**「実証の場」**を構築する仕組み。一般社団法人さいたまスポーツコミッションを推進母体として位置付け、民間力を最大限活用した各取組を実施。

これまでの取組を通じて得られた成果の体系化と課題への対応として、フィジカルデータの収集・分析・蓄積の充実化を基盤としつつ、指導者人材の育成・相談支援体制の確保等によりネットワーク型のスポーツシュレを強化し、広く市民に還元していくため、取組に必要な**機能(ソフト)と施設(ハード)を一体化させた**

「(仮称)さいたまスポーツシュレ推進施設」(以下、「推進施設」という)の整備に向けた検討を開始した。

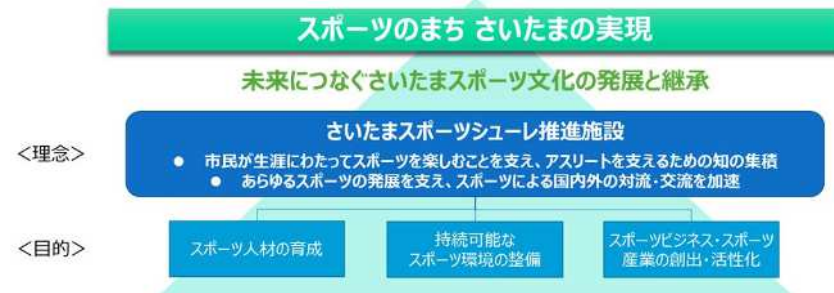
- ・令和4年10月 目的・コンセプト、整備予定地、検討体制等の基本的な方向性を決定
- ・令和5年 4月 「(仮称)さいたまスポーツシュレ推進施設の整備に係る連携協定」締結
(一般社団法人さいたまスポーツコミッション、浦和レッドダイヤモンズ株式会社、一般社団法人レッズランド、さいたま市)
- ・令和5年 7月 推進施設全体を「市民のための「シュレ」(学校)」かつ、「ネットワーク型スポーツシュレを機能させるための「ハブ」」と位置付け、必要な機能及び規模の方向性を決定

(2) 基本計画の位置付け

検討経緯や整備の方向性を踏まえ、推進施設の理念及び目的、施設計画、事業計画における具体的項目をまとめたもの。

- ・整備予定地
- ・導入機能
- ・施設構成・規模
- ・その他施設性能
- ・多様な主体とのネットワークの構築
- ・事業手法
- ・概算事業費
- ・運営収支に関する考え方
- ・今後のスケジュール

2. 推進施設の理念及び目的



3. 施設計画

(1) 整備予定地

所在地	さいたま市桜区大字上大久保639-9外 (旧埼玉県衛生研究所跡地)
敷地面積	・13,326.20㎡
用途地域 容積率/建ぺい率	・第一種住居地域 (店舗・事務所等の床面積は3,000㎡以内) ・200%/60%
その他 地区計画等	・高度地区：15m ・計画地の一部は液状化の可能性あり (支持層への杭基礎等で対応可能) ・環境影響評価制度対象の規模要件に当たらない

<周辺図>



※現状の土地所有者は埼玉県であり、本市が用地取得予定

(2) 導入機能

目的	機能	想定利用者※	機能の方向性	必要な諸室
スポーツ人材の育成	人材育成機能	指導者	✓ プロスポーツチームのノウハウやスポーツ科学の知見を活かした、 人材育成メソッドの開発、指導者育成プログラム実施	多目的研修室
	練習場・トレーニング機能		✓ フィジカルデータを活用した、 トレーニング指導、スポーツ適正評価、健康維持・フレイル予防 に向けたプログラム ✓ 最新技術を活用したスポーツ体験	アリーナエリア、スポーツテックラボ、ジムエリア
持続可能なスポーツ環境の整備	情報集積機能	市民・アスリート・指導者	✓ 市内スポーツ施設、大学、医療機関等との ネットワークに基づく、運動機会や場所、スポーツ科学・医学・栄養学等に関する情報集積・発信	多目的グラウンド リカバリールーム
	相談支援機能		✓ スポーツ医学・栄養学・心理学等の 専門家による相談・助言等の支援 ✓ チーム、リーグづくり支援、スポーツ人材のキャリア形成支援	相談室 受付、サロン・情報スペース
スポーツビジネス・スポーツ産業の創出・活性化	研究・実証機能	企業・大学	✓ さいたま市版SOIP事業の推進拠点として、 産官学による研究やデータのビジネス活用・製品開発等 を推進 ✓ スポーツテックに関する製品・サービスの 実証の場の提供 ✓ アスリートのフィジカルデータを恒常的に収集できる環境	データーーム カフェ
	交流機能	市民・アスリート	✓ 市民・アスリートの交流イベント、食を通じた健康体験 ✓ ネットワークに基づくスポーツ合宿等の誘致	アスリート等の 寄宿舎

データ測定・分析機能(他の機能の基盤となる機能)

※想定利用者の指導者・市民・アスリートについては、年齢、性別、身体状況等の違いにかかわらず、全ての者を指す。

(3) 施設構成・規模

① 屋内施設

・メイン棟

※詳細な諸室の仕様・規模等は、民間事業者の提案を踏まえて決定することを想定する。

諸室	想定利用シーン	想定面積
多目的研修室	・座学の研修、実技の研修、市民向け体験プログラム	200㎡程度
アリーナエリア	・実技の研修、体力測定会、市民向けのスポーツプログラム	650㎡程度
スポーツテックラボ	・フィジカルデータの測定・分析、結果のフィードバック	100㎡程度
ジムエリア	・データに基づくトレーニング指導 ・利用者のトレーニング(一般トレーニング、低酸素トレーニング)	350㎡程度
リカバリールーム	・運動後の疲労回復に寄与する、サウナ・アイスバス・温浴施設等	240㎡程度
データーーム	・測定したデータを参照した会議や商談など	30㎡程度
相談室	・スポーツ等に関する個別相談	30㎡程度
カフェ(飲食スペース)	・市民や利用者、アスリートの交流の場 ・アスリートのトレーニングや食事等の健康管理の体験	190㎡程度
計	ロッカールーム、受付・事務所、共用部(サロン・情報スペース含む)を含めて	最大3,000㎡程度

・寄宿棟

アスリート等の寄宿舎	・アスリート等が居住し、様々なフィジカルデータを恒常的・継続的に収集・分析・蓄積し、他のアスリートや市民等のスポーツ相談・支援に還元	敷地における制限の範囲内で整備
------------	--	-----------------

② 屋外施設

諸室	想定利用シーン	想定面積
多目的グラウンド	・フィジカルデータの測定・分析やトレーニング指導 ・市民向けスポーツプログラム	2,100㎡以上
駐車場・駐輪場	・駐車場：70台程度(関係者用含む)、駐輪場：60台程度	2,000㎡程度

2